

```
*****
**                                                                 **
**                               ソフトウェア説明書                **
**                                                                 **
**                               Fortran&C Package V4.0L10          **
**                                                                 **
*****
**                                                                 **
**                               本製品は、Fortran&C Package V4.0L10の評価版です。 **
**                               評価版の使用期間は90日間に設定されています。 **
**                                                                 **
*****
```

はじめに

本ソフトウェア説明書では、各製品を次のように略記しています。

- ・ 「Microsoft(R) Windows(R) 98 Operating System」 および
「Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Edition」
--> 「Windows 98」
- ・ 「Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition」
--> 「Windows Me」
- ・ 「Fortran&C Package V2.0L10」
--> 「V2.0L10」
- ・ 「Fortran&C Package V2.1L10」
--> 「V2.1L10」
- ・ 「Fortran&C Package V3.0L10」
--> 「V3.0L10」
- ・ 「Fortran&C Package V4.0L10」
--> 「V4.0L10」

本ソフトウェア説明書は、以下の構成で記述されています。

1. 注意事項
2. V4.0L10の新機能
3. V3.0L10からの移行
4. V2.1L10からの移行
5. V2.0L10からの移行

本製品の以下については、『インストレーションガイド』(INSTALL.TXT)を参照してください。

- 製品概要
- ハードウェア条件
- ソフトウェア組合せ条件
- インストール手順
- アンインストール手順
- インストーラとアンインストーラの制限事項
- サンプルプログラム
- ヘルプおよびオンラインマニュアル

本製品には、オンラインマニュアルとして、PDF(Portable Document Format)ファイルが含まれます。本ソフトウェア説明書は、このオンラインマニュアルをPDFファイルと記述しています。

1. 注意事項

V4.0L10には、次の注意事項があります。

1) 全体

a) 高度な安全性が要求される用途への使用について

- ・ 本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

2) Fortran Compiler

- a) Microsoft(R) Visual C++(R)バージョン6.0のCプログラムと言語間結合することができます。詳細については、Fortran使用手引書の“付録E Microsoft(R) Visual C++(R)との組合せについて”を参照してください。
- b) 翻訳時オプション/KVSW（ウィンドウプログラミング機能）を指定し、VSWルーチンを使用した場合、動的結合プログラムは、作成できません。ウィンドウプログラミングについては、“ウィンドウプログラミング使用手引書”を参照してください。
- c) 翻訳時オプション/Komitfpまたは/Kfast（Fortran使用手引書の“2.2 翻訳時オプション”を参照）を指定した場合、トレースバックマップ情報が保証されません。トレースバックマップについては、Fortran使用手引書の“4.2.2 トレースバックマップ”を参照してください。
- d) Fortranの以下の手順で、西暦年を求めている場合、西暦年の下2桁が返却されません。

- DATEサービスサブルーチン
- JDATEサービス関数

このため、ユーザプログラムで、返却値を単純に大小比較していると、誤動作する可能性があります。したがって、プログラムでの考慮が必要になります。実行時オプション/Wl, Ry, liを指定することにより、これらのルーチンを実行した場合に診断メッセージが出力されます。

例:

a. exe /Wl, Ry, li ここで、lは、エルです。

なお、4桁で西暦を通知するルーチンには、以下があります。

- CTIMEサービス関数
- FDATEサービスサブルーチン
- IDATEサービスサブルーチン
- GETDATサービスサブルーチン
- DATE_AND_TIME組込みサブルーチン

- e) 文字文脈にEUCコードを含むことはできません。翻訳時にエラーになります。
- f) 翻訳時オプション/Kprefetchおよび/KSSE2（Fortran使用手引書の“2.2 翻訳時オプション”を参照）は、以下の注意が必要です。
 - 翻訳時オプション/Kprefetchを指定して作成した実行可能プログラムは、prefetch命令がサポートされているハードウェアだけで実行できます。
 - 翻訳時オプション/KSSE2を指定して作成した実行可能プログラムは、SSE2命令がサポートされているハードウェアだけで実行できます。
 - すべてのプログラムにおいて実行性能が向上するとは限りません。
- g) 手順やデータの引用回数がコンパイラの制限を超えた場合、翻訳時にjwd0103i-uまたは、jwd8694i-uが出力されます。原始プログラムを分割してください。
- h) Pentium(R) Pro以上のCPUに対する最適化が行われます。本製品で翻訳した場合、Pentium(R) Proの命令を実行できないPentium(R)プロセッサでは、実行することはできません。

3) C Compiler

- a) 文字定数、文字リテラル定数および注釈にEUCコードを含むことはできません。翻訳時にエラーになります。
- b) Pentium(R) Pro以上のCPUに対する最適化が行われます。本製品で翻訳した場合、Pentium(R) Proの命令を実行できないPentium(R)プロセッサでは、実行することはできません。

4) Workbench

a) 全体

- エディタ、ビルダおよびメイクファイルエディタは、PowerGEM Plus V6.2L10のPowerFRAMEVIEWエディタ、PowerFRAMEVIEWビルダおよびPowerFRAMEVIEWメイクファイルエディタを提供しています。
- Windows 98の場合、以下の現象になることがあります。
 - システムインストールフォルダ¥pifにcommand.pifがあり、かつ、その作業フォルダ項目に何らかの情報が設定されている場合、実行可能プログラムの実行ができない場合があります。この場合は、作業フォルダ項目を空白にしてください。
 - スクリーンの使い方がフルスクリーン表示になっている場合、ビルダより呼び出されるコマンドプロンプトがフルスクリーンになることがあります。コマンドプロンプトをフルスクリーンにしたい場合は、スクリーンの使い方をウィンドウ表示にし、実行時の大きさを最小化の状態または通常のウィンドウにしてください。ただし、最小化の状態にすると、開発マネージャより実行可能プログラムを実行するとき、コマンドプロンプトがアイコン状態になるため注意が必要です。
- Windows 98およびWindows Meの場合、表示されるDOSプロンプト画面に「パラメータの値が許容範囲をこえています」または「環境変数のための領域が足りません」のメッセージが出力されることがあります。以下の回避を実施してください。

[Windows 98の場合]

config.sysに

```
SHELL=システムインストールフォルダ¥COMMAND.COM /P /E:32768
```

を追加してください。

[Windows Meの場合]

Workbenchにより起動されたDOSプロンプト画面の[プロパティ]から[メモリ]タブを選択し、「環境変数の初期サイズ」を変更してください。

b) メイクファイルエディタ

- NetCOBOLまたは、PowerCOBOL97 Pro、PowerCOBOL85 ProのCOBOL Workbenchがインストールされている場合、COBOL Workbenchメイクファイルエディタが起動されます。FortranまたはC用のメイクファイルエディタを利用できるようにするには、以下の操作をしてください。
 - (1) COBOL Workbenchメイクファイルエディタが起動されている場合、これを終了します。
 - (2) 開発マネージャで、任意のソースファイルを選択して、[ツール]メニューの[エディタ]コマンドを実行します。
 - (3) エディタが起動されたら、エディタの[オプション]メニューの[環境設定]コマンドを実行します。
 - (4) [環境設定]ダイアログボックスで、[ツールの組み込み]の[ログオンユーザの環境]ボタンをクリックします。
 - (5) [ツールの組み込み]設定画面の[拡張子との関連付け]タブをクリックします。
 - (6) [拡張子との関連付け]設定画面で以下のように情報を選択した後、[削除]ボタンと[OK]ボタンを続けてクリックします。

```
[拡張子]           : MAK  
[拡張子と関連付けられたツールの情報]のグループ  
- [ツールクラス名] : EDIT  
- [格納先の名前]  : COBOL-WB_32
```
 - (7) [環境設定]ダイアログボックスで[閉じる]ボタンをクリックします。

(8) エディタを終了し、開発マネージャを再起動します。

c) デバッグ

- ・ ソースレベルのデバッグを行う場合の実行可能プログラムの作成方法およびデバッグ方法の例を、以下に示します。

```
fort_main.f90 -----> Fortranの主プログラム
fort_sub.f90  -----> Fortranのサブルーチン副プログラム
c_main.c     -----> Cのメインプログラム
c_func.c     -----> Cのファンクションプログラム
```

[Fortranプログラムがメインの場合]

```
frt /g /c fort_sub.f90-----> fort_sub.f90を翻訳時オプション/g指定で
                               翻訳し、オブジェクト(fort_sub.obj)を
                               作成します。
fcc /g /c c_func.c      -----> c_func.cを翻訳時オプション/g指定で翻訳
                               し、オブジェクト(c_func.obj)を作成しま
                               す。
frt /g fort_main.f90 fort_sub.obj c_func.obj
                               -----> fort_main.f90を翻訳し、fort_main.exeを
                               作成します。
```

この時点で、このフォルダにあるファイルは、
fort_main.f90、fort_sub.f90、c_func.c、fort_main.obj、fort_sub.obj、
c_func.obj、fort_main.fwd、fort_sub.fwd、c_func.fwd、
fort_main.exe、fort_main.ydgおよびc_main.c
です。なお、*.fwdと*.ydgファイルは、翻訳時オプション/gを指定しなければ生
成されません。

デバッグの起動

```
winfdb fort_main.exe
```

ここで、fort_main.exeおよびfort_main.ydgファイルは、同一フォルダになけれ
ばいけません。

[Cプログラムがメインの場合]

```
frt /g /c fort_sub.f90 -----> fort_sub.f90を翻訳時オプション/g指定
                               で翻訳し、オブジェクト(fort_sub.obj)
                               を作成します。
fcc /g /c c_func.c      -----> c_func.cを翻訳時オプション/g指定で翻
                               訳し、オブジェクト(c_func.obj)を作成
                               します。
fcc /g /c c_main.c     -----> c_main.cを翻訳時オプション/g指定で翻
                               訳し、オブジェクト(c_main.obj)を作成
                               します。
frt /g c_main.obj fort_sub.obj c_func.obj
                               -----> c_main.exeを作成します。
```

この時点で、このフォルダにあるファイルは、
fort_main.f90、fort_sub.f90、c_func.c、fort_sub.obj、c_func.obj、
fort_sub.fwd、c_func.fwd、c_main.exe、c_main.ydg、c_main.fwd、c_main.c
およびc_main.obj
です。なお、*.fwdおよび*.ydgファイルは、翻訳時オプション/gを指定しなけれ
ば生成されません。

デバッグの起動

```
winfdb c_main.exe
```

ここで、c_main.exeおよびc_main.ydgファイルは、同一フォルダになければいけ
ません。

- ・ 成分属性指定子にALLOCATABLEをもつ構造型の変数を表示すると、成分属性指定子
がPOINTERと表示されます。

5) PDFファイルの参照

- a) 本製品のPDFファイルは、Adobe(R) Acrobat(R) Reader 5.0以降で参照してくださ
い。

6) ヘルプの参照

a) 本製品のヘルプを参照するためには、以下の注意が必要です。

- Microsoft(R) Internet Explorer 5.01以降がインストールされている必要があります。ただし、Microsoft(R) Internet Explorer 5.5以降を推奨します。
- Microsoft(R) Internet Explorer 5.01以降がインストールされていない場合、ヘルプを正しく参照できません。
- Microsoft(R) Internet Explorerをデフォルトのブラウザに設定する必要はありません。
- Microsoft(R) Internet ExplorerおよびWindows(R)の累積的な修正プログラムを適用していない場合、スクリプトエラーが発生することがあります。

2. V4.0L10の新機能

V4.0L10で追加された新機能には、次の項目があります。

1) 全体

a) 本ソフトウェアの動作OSとして、以下をサポートしています。

- Microsoft(R) Windows Server TM 2003 Standard Edition
- Microsoft(R) Windows Server TM 2003 Enterprise Edition

2) Fortran Compiler

a) オプション操作機能

以下のオプション操作機能が追加されています。詳細は、PDFファイルで提供されているFortran使用手引書の“2.2 翻訳時オプション”を参照してください。

- 翻訳時オプション/Kexoptを指定することにより、/Oオプションが有効な場合の最適化に加えて多重ループのフルアンローリング、ループ交換促進のためのループ分割および添字が定数である配列に関する最適化が行われます。翻訳時間は増加しますが、オブジェクトプログラムの実行性能向上を追求したいときに利用してください。本オプションは、翻訳時オプション/Kfastから誘導されます。
- 翻訳時オプション/KPENTIUM4を指定することにより、Pentium(R) 4プロセッサに特有な最適化を指示します。
- 翻訳時オプション/Knsを指定することにより、SIMD浮動小数点のゼロ・フラッシュ・モードを有効にすることをします。アンダフローの数値をゼロにすることがあります。/KPENTIUM4および/KSSE2オプションと同時に指定する必要があります。
- 翻訳時オプション/KSSE2を指定することにより、SSE2命令を使用した最適化を指示します。/Knsオプションも同時に指定されると解釈されます。本オプションは、/KPENTIUM4オプションと同時に指定する必要があります。
- 翻訳時オプション/Kunrollに、ループ展開数の上限を指定することができます。
- 翻訳時オプション/Efを指定することにより、ループ融合の最適化が行われた箇所の通知として、iレベルの診断メッセージを出力することを指示します。
- 翻訳時オプション/Nvarheapを指定することにより、局所的な配列、文字型および構造型の変数を、ヒープに割り付けること指示します。

b) コンパイラ制限緩和

- 手続やデータの引用回数がコンパイラの制限を超えた場合、翻訳時にjwd8694i-uが出力されます。V4.0L10では、この制限が緩和されています。

3) SSL II

a) 行列積、連立一次方程式機能が追加されています。

b) SSL IIの線形計算分野の主要ルーチンについて、Pentium(R) 4プロセッサ向

けにSSE2命令を使用して高速化したライブラリが追加されています。

4) BLAS

- a) BLASは、ベクトル演算や行列演算を行うライブラリです。本製品ではNetlibで公開されているLevel 1 BLAS、Level 2 BLAS、Level 3 BLASの他に Sparse BLAS のルーチンを提供しています。
- b) BLASの主要ルーチンについて、Pentium(R) 4プロセッサ向けにSSE2命令を使用して高速化したライブラリを提供しています。

5) LAPACK

- a) LAPACKは、線形代数の問題を解くライブラリです。本製品ではNetlibで公開されているLAPACK Version 3.0のルーチンを提供しています。

3. V3.0L10からの移行

以下は、V3.0L10からV4.0L10への移行のための注意事項です。

1) 全体

- a) Microsoft(R) Windows(R) 95 Operating Systemは、サポートしていません。

2) Fortran Compiler

- a) Pentium(R) Pro以上のCPUに対する最適化が行われます。
本製品で翻訳した場合、Pentium(R) Proの命令を実行できないPentium(R) プロセッサでは、実行することはできません。
- b) 翻訳時オプション/Kfastが指定されたとき、/Kexoptオプションが、同時に指定されたと解釈されます。
- c) 翻訳時オプション/Kevalが指定されたときの最適化機能が強化されています。
V3.0L10で動作していたプログラムが動作しない場合があります。この場合、/Kevalを指定しないで再翻訳してください。
- d) Fortran 90規格で追加された仕様であるモジュールプログラム単位を再翻訳した場合、それをUSEするプログラム単位も再翻訳する必要があります。
- e) 外部装置に*を指定した場合、READ文であればstdin、WRITE文またはPRINT文であればstdoutに接続されます。
V3.0L10：PRINT文およびUNIT=*の場合、READ文はUNIT=5、PRINT文およびWRITE文はUNIT=6に接続されます。

例：

```
WRITE(*,*) 123           !画面に123が出力  
OPEN(6, file='file6')  
WRITE(*,*) 345          !ファイルfile6に345が出力
```

V4.0L10：PRINT文およびUNIT=*の場合、stdinまたはstdoutに接続されます。

例：

```
WRITE(*,*) 123           !画面に123が出力  
OPEN(6, file='file6')  
WRITE(*,*) 345          !画面に345が出力
```

- f) 並びによるREAD文、または変数群READ文において、次の条件の場合、Wレベルの実行時メッセージが出力されることがあります。入力並びと対応するデータ項目の型が同じになるように修正してください。
 - 翻訳時オプション/X9が有効です、かつ
 - 入力並びの型が複素数型、倍精度複素数型または、4倍精度複素数型です、かつ
 - 対応するデータ項目の型が論理型、整数型、または実数型です。

3) C Compiler

- a) Pentium(R) Pro以上のCPUに対する最適化が行われます。
本製品で翻訳した場合、Pentium(R) Proの命令を実行できないPentium(R) プロセッサでは、実行することはできません。

4. V2.1L10からの移行

以下は、V2.1L10からV3.0L10への移行のための注意事項です。V2.1L10からV4.0L10

へ移行する際には、「3. V3. 0L10からの移行」も併せてお読みください。

1) Fortran Compiler

- a) 翻訳時オプション/Kfdivおよび/Knofdivがサポートされていません。そのため、浮動小数点除算命令が正しく実行できないPentium(R)の環境で実行することはできません。また、V2. 1L10で翻訳時オプション/Knofdivを指定して翻訳されたオブジェクトプログラムについても同様に実行することはできません。
- b) DO変数の更新検査機能は、翻訳時オプション/Haの指定で動作していましたが、翻訳時オプション/Hxの指定で動作するように変更されています。デバッグのための検査機能については、Fortran使用手引書の“8.2.1 デバッグを行うための検査機能”を参照してください。
- c) 本製品のリンカは、V2. 1L10とリンクオプションの互換がありません。V2. 1L10で翻訳時オプション/W1でリンクオプションを指定していた場合は、互換がありません。翻訳時オプション/W1については、Fortran使用手引書の“2.2 翻訳時オプション”を参照してください。
- d) 翻訳時オプション/d11を指定して作成された、IMPファイルは、互換がありません。V3. 0L10で翻訳時オプション/d11を指定して再リンクし、.LIBファイルを作成してください。動的結合については、Fortran使用手引書の“第12章 動的結合”を参照してください。
- e) DCWモードによるウィンドウプログラミング機能

本システムで提供されるWin32(R) application programming interface (以下「Win32API」という) ライブラリの手続名の加工方法が変更されています。そのため、DCWモードによるウィンドウプログラミング機能 (“ウィンドウプログラミング使用手引書”を参照) を使用したプログラムでは、以下の注意が必要です。

- V2. 0L10およびV2. 1L10で翻訳時オプション/KDCWを指定して作成したオブジェクトは、互換がありません。翻訳時オプション/KDCWを指定して再翻訳してください。ただし、翻訳時オプション/KDCW2を指定していた場合は、再翻訳の必要はありません。
- 本システムで提供されるWin32APIライブラリとインタフェースを一致させるために、翻訳時オプション/ml=stdcallを指定していた場合は、/ml=stdcallに替えて/ml=stdcall2を指定して再翻訳してください。翻訳時オプション/mlについては、Fortran使用手引書の“2.2 翻訳時オプション”を参照してください。

2) C Compiler

- a) Cライブラリの動作が V2. 1L10と異なる場合があります。詳細は、CLIB.TXTを参照してください。
- b) 翻訳時オプション/Kfdivおよび/Knofdivがサポートされていません。そのため、浮動小数点除算命令が正しく実行できないPentium(R)の環境で実行することはできません。また、V2. 1L10で翻訳時オプション/Knofdivを指定して翻訳されたオブジェクトプログラムについても同様に実行することはできません。

5. V2. 0L10からの移行

以下は、V2. 0L10からV2. 1L10への移行のための注意事項です。V2. 0L10からV4. 0L10へ移行する際には、「3. V3. 0L10からの移行」および「4. V2. 1L10からの移行」も併せてお読みください。

1) 全体

- a) Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version 3.51は、サポートしていません。
- b) NEC PC9821シリーズは、サポートしていません。
- c) Fortran使用手引書およびC言語使用手引書の製本マニュアルは、存在しません。
- d) Fortran 95の仕様は、Fortran文法書に記述されています。Fortran文法書を参照してください。

2) Fortran Compiler

- a) 主プログラム単位を翻訳時オプション/NRnotrapで翻訳した場合、以下の動作に

なります。デフォルトは、/NRnotrapです。

- 組込み演算 (jwe0259i-eからjwe0282i-e、jwe1397i-e、jwe1398i-e、jwe1413i-e、jwe1414i-e、jwe1416i-eおよびjwe1417i-e)に対するFortranライブラリの診断メッセージが出力されません。
- 浮動小数点演算の割込み事象 (jwe0011i-u、jwe0012i-u、jwe0013i-uおよびjwe0292i-u)を検出しません。

これらの診断メッセージを出力または浮動小数点演算の割込み事象を検出したい場合は、主プログラム単位を翻訳時オプション/NRtrapを指定して翻訳してください。実行時のFortran診断メッセージについては、Fortran使用手引書の“4.2.1 実行時の診断メッセージ”を参照してください。

- b) 主プログラム単位を翻訳した場合、組込み手続のエラー修正解釈値が変更されています。この修正値での動作に原始プログラムを修正してください。
- c) Fortran 90規格で追加された仕様であるモジュールプログラム単位を再翻訳した場合、それを引用するプログラム単位も再翻訳する必要があります。

3) Workbench

a) 開発マネージャ

- [翻訳と結合]ダイアログボックスの[翻訳]ボタンは、[翻訳時オプション]ダイアログボックスでは、[OK]ボタンに変更されています。翻訳したい場合は、[ビルド]-[翻訳]コマンドを使用してください。
- [実行時オプション]ダイアログボックスの[実行]ボタンは、[OK]ボタンに変更されています。実行したい場合は、[実行]-[実行]コマンドを使用してください。
- 開発マネージャを使用して、CプログラムまたはCプログラムから作られたオブジェクトを結合編集する場合は、以下の操作をしてください。
 - (1) 開発マネージャの[ビルド]メニューの[翻訳時オプション]コマンドを実行します。
 - (2) [翻訳時オプション]ダイアログボックスの[Link]タブの[リンクコマンド]ドロップダウンリストボックスで、fccを選択します。
- ファイル一覧でファイルを選択してアナライザを起動したい場合は、アナライザのプロジェクトファイルを選択して起動してください。プロジェクトファイルについては、Visual Analyzer使用手引書を参照してください。

b) サンプラ

- サンプリングデータファイル名の拡張子は、.smpだけに変更されています。V2.0L10で作成したサンプリングデータファイルを使用する場合は、拡張子を.smpに変更してください。
- [ファイル]-[閉じる]コマンドがなくなりました。子ウィンドウを閉じる場合は、子ウィンドウの[閉じる]ボタンを使用してください。また、[ウィンドウ]-[すべて閉じる]コマンドで、すべての子ウィンドウを閉じることができます。
- [情報収集]-[表示対象プログラム]コマンドのデフォルトが変更されています。FortranおよびCプログラム以外の表示が、「表示する」から「表示しない」に変更されています。

c) カバレッジ

- カバレッジデータファイル名の拡張子は、.covだけに変更されています。V2.0L10で作成したカバレッジデータファイルを使用する場合は、拡張子を.covに変更してください。
- [ファイル]-[閉じる]コマンドがなくなりました。子ウィンドウを閉じる場合は、子ウィンドウの[閉じる]ボタンを使用してください。また、[ウィンドウ]-[すべて閉じる]コマンドで、すべての子ウィンドウを閉じることができます。

4) Visual Analyzer

・V2.0L10で作成した解析結果のデータファイルを使用して解析結果を表示する場合は、以下の操作により、再解析せずに解析結果を表示することができます。

- (1) [プロジェクトの作成]ダイアログボックスの[プロジェクト名]ボックスには、作成するプロジェクト名を指定します。そして、[作成する場所]ボックスには、解析結果のデータファイルが存在するフォルダ名を指定します。プロジェクト名を入力すると、[作成する場所]ボックスの内容が変更されるので注意してください。

例えば、フォルダ“c:\program\VA”にV2.0L10で作成した解析結果のデータファイルが存在する場合、[プロジェクト名]ボックスに“VA”、[作成する場所]ボックスに“c:\program\VA”を指定してください。

- (2) [解析]-[解析情報の表示] コマンドをクリックします。

ただし、V2.0L10で作成した解析結果のデータファイルを使用した場合、ロジックフローのポップアップメニューにある[TEXTへ出力]コマンドを使用してもテキストへの出力はできません。

Acrobat(R) Reader Copyright(C) 1987-2001 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、およびAdobe Acrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Visual C++およびWin32は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。
他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。

以上